



## 第48回九州シニア選手権競技

競技報告 (2018/ 9/ 26-27)

写真と記事 : M. Kikutake

通算9オーバー 153

**山浦正継 (志摩シーサイド)**

**10年ぶり2度目の栄冠**

阿久根公生 (有明) とのプレーオフを制す

第48回九州シニア選手権は9月26、27日の2日間、北九州市の門司ゴルフ倶楽部(6710ヤード、パー72)で行われ、66歳の山浦正継(志摩シーサイド)が通算9オーバー、153で並んだ60歳、阿久根公生(有明)とのプレーオフを制し、10年ぶり2度目の優勝を飾った。

2人によるプレーオフは3ホール目、フェアウエー左サイドの木に当てるなど苦戦した山浦だったが、4打目をうまくピンに寄せてボギー。逆に阿久根は3打目をピンの上につけた挙げてボギーパットを外し、敗退した。

今大会には各県地区予選を通過した選手ら、55歳以上の150人(欠場5人)が参加。

初日、1オーバーの73で単独首位に立ったのは辻田昭吾(くまもと中央、62歳)。山浦は阿久根とともに2位タイにつけ、1打差を追っての最終日となった。山浦は前半の終盤、連続ダブルボギーを打つなど42と乱れたが、後半は2バーディー、3ボギーと踏みとどまり79とした。首位発進の辻田は後半、ボギーを連発して45を打って脱落。山浦とともに1打差で追っていた阿久根が1バーディー、4ボギー、2ダブルボギーの79で回り、プレーオフにもつれ込んだ。

2打差の3位タイに野上英司(ミッションバレー、60歳)と平川勝也(臼杵、56歳)の2人。さらに1打差の通算12オーバーの5位タイに辻田ら5人。前回優勝の小宮正(小倉、59歳)は22オーバーで48位タイだった。



### くまもと中央CCでの日本シニアに18人が出場権

この試合の結果、10月24日~26日、熊本県のくまもと中央CCで行われる第40回日本シニア選手権には15オーバー、12位タイまでの16人と、16オーバー、17位タイの4人のうちマッチングスコアカードで選ばれた2人の計18人が出場権を得た。



## 「次は日本シニアを取りたい」 10年ぶりの九州シニア制覇で意欲を見せた山浦正継

「やはり歴史があるコース。何でもかんでも打てばいいというものではない」。硬軟をつけたゴルフで粘る阿久根を3ホール目で突き放した山浦は、苦戦の末に手にした栄冠にしみじみとした口調で言った。

日本シニアの出場権が目標だったという。だが、スタートのアウトは出だしからボギー。6番でバーディーはあったものの、結局は3ボギー、2ダブルボギーで前半42をたたいた。初日も39のスコアで「どうもアウトは相性が悪い」。しかし、インに入るときっちり帳尻を合わせた。

阿久根は飛距離で山浦に劣るものの、アプローチで勝り、前半で山浦を3打リード。しかし、後半に入るとスコアを落とし、リード分を吐き出してプレーオフにもつれ込んだ。

そしてそのプレーオフは3ホール目、トラブリながらも4打目をピン下1・5フィートにつけてこれを沈めた山浦。阿久根はグリーン手前からのアプローチが土壇場で狂った。ピン奥からの下りのパーパットが外れ、返しも入らず、万事休した。

10年前の初優勝時もプレーオフを制してのもの。「プレーオフは嫌いじゃない」という。10年前はもちろん、若さがあった。その若さから、3週間後の日本シニアオープン（埼玉・狭山GC）では念願のローアマも獲得した。

九産大時代に始めたゴルフは年季が入っている。しかし、6年前にカート事故で右大腿骨骨折のアクシデント。ゴルフができ

ない日々が続いた。ところが、この人は「もう（ゴルフは）いいや」とはならなかった。一つのバロメーターが「ドライバーの飛距離が230ヤード以下になれば引退、と思っていた」そうだ。徐々に試合に復帰して自信もついていた。この日のラウンドでもそうだったが、阿久根には30ヤードほどのオーバードライブ。まだ十分に飛んでいる。

2年ほど前からは「日本を取りたいと思った。まだまだチャンスはあるだろう」。シニアの九州と、プロとのシニアオープンローアマを取り、残るのは日本シニア。それが今年は地元九州で行われる。「そう簡単なものではないだろうが、やっぱり勝ち



たい」。山浦は「九州チャンピオンとして“忘れ物、を取りに行くつもりだ。

（写真はプレーオフを戦いお互いの健闘をたたえあう山浦<sup>Ⓜ</sup>と阿久根<sup>Ⓜ</sup>）

プレーオフで惜敗した阿久根公生（元柳川高ゴルフ部監督、元九州高校ゴルフ連盟理事長） プレーオフの3ホール目は勝負に行ったけど…。緊張はしなかったが、ちょっとあせったのかもしれない。